

技術で豊かなまちづくり

平成20年 1月 1日

高知土木技士

No.42

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館 5 F TEL 825-1844]



平成 19 年度表彰 国土交通省 優良建設工事
四国地方整備局

施 工

福留開発 株式会社

工 事 名

平成18年度 用石堤防災害復旧工外工事

場 所

土佐市用石

現場代理人

森 澤 建 雄

土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を持ち、
常に自己の資質と技術の向上に努め、
社会に貢献すること。

(誇りを持とう)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽けんざんに励むこと。

(技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

(公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉たつとを尚び、広く模範となる行動をすること。

(ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、ふだんの生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。



謹 賀 新 年



(社) 高知県土木施工管理技士会

会 長 宮 田 益 吉

明けましておめでとうございます。

皆様にとりまして希望ある輝かしい年となりますよう心からご祈念申し上げます。

平素より当技士会の事業運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当技士会は昭和55年4月に設立以来29年目を迎えることとなりました。地方の建設業を取り巻く環境は非常に厳しく、長引く公共事業費抑制は、公共事業に対する依存度が高く、経営基盤の脆弱な本県の建設業界に大きなダメージとなっており、企業にとって土木技術者を継続雇用することが困難になっていることから、多くの土木技術者が将来への不安を募らせています。

このことは、「公共工事における配置技術者」や「災害発生時に最前線で活動する土木技術者」の確保が極めて難しい事が実態となっており、地域社会の安心・安全へのためにも企業が優秀な技術者を雇用できる環境づくりが喫緊の課題となっています。

新年こそ地方の活性化、中小企業の活性化へ地域に根差した建設業でありたく考えています。これには、昨年の国政選挙結果で示された中央と地方の地域間格差の解消へ、地方へ目を向けた政策の実現であります。さらに、自主財源の乏しい本県経済の復興のためには、国政関係要路とのさらなる取り組みで、ご支援ご配慮を強くお願いを申し上げるところであります。

ここにきて公共工事においては、公共調達革命として施行された「品確法」に基づき、一般競争入札方式が地方公共団体でも拡大し、併せて、総合評価落札方式の地方自治体への普及、採用が加速されており、これ等への対応に各企業は備えなければなりません。

このため、当技士会は資格取得を目指す技術者への受験準備講習会をはじめ、土木施工管理技士が自身の技術力アップを体系的・具体的に推進する土木施工管理／CPDS（継続的専門能力啓発システム）による指定技術講習会を開催し、技術者が自己研鑽の活動を通じて、国民の福祉に役立つ良質な目的物を創造するために必要となる技術力と資質の向上を図ることを目指しております。

同時に、土木技士会の監理技術者講習も4年目を迎え高知県土木技士会の果たすべき役割はますます重要になっています。

新年度におきましても土木施工管理技士の社会的地位の向上を図ることを目的とする技士会の事業活動へ積極的に取り組んで参りますので、会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、各関係団体のご指導とご支援を賜りますことをお願い申し上げ、会員皆様方のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。



新年のごあいさつ



高知県土木部長 宮崎利博

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

高知県土木施工管理技士会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

また、平素から土木行政をはじめ県行政の推進につきましてご理解を頂き、格段のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

新しい年が明け、新しい年度が始まりますが平成20年度におきましても相変わらず厳しい予算で臨んでいくことになります。土木部の予算は、平成19年度と同様に、ピークであった平成11年度の当初予算の半分以下で推移する見込みです。

土木部としては、このような厳しい状況の中でも、次の4つの事業に重点化を図り予算を編成しています。一つ目は、「四国8の字ネットワークの整備促進」、二つ目は、「産業振興や市町村合併を支援する道路整備の推進」、三つ目は、「国直轄事業の促進」、四つ目は、「南海地震への備え」です。

厳しい予算ではありますが、本県の社会資本整備の水準はまだ十分とはいえず、そのため、事業のプライオリティを明確にし、効果的で透明性の高い事業を実施することや、地域の実情にあった事業を進めるとともに、既設施設の有効活用と延命化のための計画的な維持管理を行っていくことが重要であると考えています。このため三方良し「住民良し、発注者良し、受注者良し」の公共事業改革、「ワンデーレスポンス」の拡大にも取り組んで参ります。

発注者と受注者がお互いに知恵と工夫を出し合い、一体となって、技術力の向上などに継続的な取り組みを行い、組織として、又個人としてさらなる資質の向上を図っていきたいと考えています。

そのためにも日頃から技術力の向上と発展に積極的に努められている貴会の役割は、これまでも増して重要となっております。

今後とも貴会のご支援を頂きながら、県民の生活を支え、安全を守り、環境を保全し、活力を増強するための社会資本の整備に努めて参りたいと考えています。

最後に高知県土木施工管理技士会のますますのご発展と、会員の皆様にとって実り多き年となりますよう祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

* 技術コーナー *

四国横断自動車道

須崎市～四万十町間の整備状況について

国土交通省土佐国道事務所

事業対策官 中村 慎二

1 はじめに

四国横断自動車道 須崎市～四万十町間 (21.8km) は、従前、国土交通大臣の施行命令を受け、日本道路公団が高速自動車国道の新設・改築・料金徴収を実施していたが、平成15年12月25日の第1回国土開発幹線自動車道建設会議の議を経て、施行主体が日本道路公団から国土交通大臣 (担当：土佐国道事務所・中村河川国道事務所) に変更となるとともに、新直轄方式 (国：3 と地方：1の負担による整備、通行料無料) で整備することとなった。

また、平成19年3月には、四万十町影野地区において高知県が主体となって整備するICも決定し、高速道路へのより効率的なアクセスを確保することにより、企業立地をはじめとした地域経済の浮揚、雇用創出の促進等により、よりいっそう地域活性化に寄与できると考えている。



2 須崎新荘IC (仮称)～中土佐IC (仮称) (延長7.0km)

この区間は、平成20年度末に自動車専用道路として全線供用する須崎道路 (須崎東IC～須崎新荘IC間 延長4.7km) に接続する区間で、全延長に占めるトンネル延長比は、83

%と非常に高く、地形的にも厳しい区間である。また、並行する一般国道56号は、日交通量約13,000台の主要幹線道路でありながら、地形上の制約から厳しい平面・縦断線形となっていることや、歩道のないトンネルもあることから、現国道の交通安全対策としても、一日も早く、この区間を開通させる必要性があると考えている。

工事としては、現在、4本のトンネルのうち和田トンネルの貫通を図り、残り3本については鋭意掘削中であり、区間全体としては平成22年度末の供用を目指して工事を進めている。

トンネル名称	延長 (m)
新角谷トンネル	2,500
焼坂第1トンネル	2,040
焼坂第2トンネル	920
和田トンネル	156

3 中土佐IC(仮称)～窪川IC(仮称) (延長14.8km)

この区間は、中土佐ICから七子峠の下を貫通する影野トンネルまでは、縦断勾配が急でトンネルと橋梁が連続する区間であり、窪川地区では、比較的平坦な地形の中で、切土や盛土などの土工が主体の区間となっている。

工事としては、現在、4本のトンネルのうち3本に着手しており、残りの大坂谷トンネルについても早期の工事着手を予定している。また、4本ある橋梁についてはすべて工事着手しており、区間全体としては平成20年代半ばの供用を目指して工事を進めている。

また、区間のほぼ中央の影野地区には、高知県が地域活性化のため、高知向き入り口、四万十向き出口のハーフインターの整備を進めることとなっている。

トンネル名称	トンネル延長 (m)
川崎トンネル	570
久礼坂トンネル	933
大坂谷トンネル	950
影野トンネル	2,387

橋梁名(100m以上)	橋梁形式	橋梁延長(m)
久礼橋	PRC14径間連続2主版桁橋	462
長沢橋	PC3径間連続ラーメン箱桁橋 (波形鋼版ウェブ)	261
大坂谷川橋	PC4径間連続ラーメン箱桁橋	391
仁井田川橋	3径間連続鋼・コンクリート混合橋 (鋼単純2主鋼桁橋、PRC2径間連続2主版桁橋)	115

4 おわりに

四国横断自動車道 須崎市～四万十町間は、「四国8の字ネットワーク」の一部を形成することから、四国西南部をはじめ四国全体の産業の立地振興や観光のみならず、生活領域の拡大に大きな役割が期待されている。また、今後想定される「東南海・南海地震」などによる災害時の代替路としての役割を担う重要な路線でもあることから、地域の方々のご理解やご協力を得ながら、一日も早い完成を目指して事業を進めたいと考えている。

* 会員の広場コーナー *

平成18年度 用石堤防災害復旧工外工事

福留開発株式会社

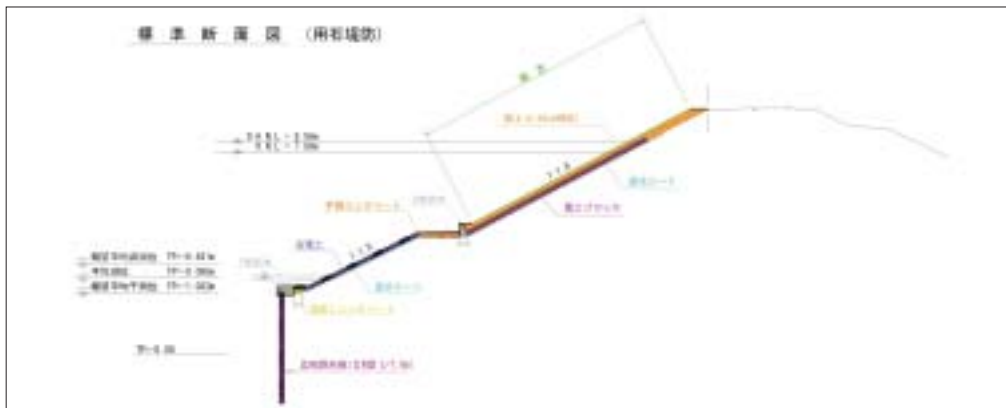
工務部次長 森 澤 建 雄

■はじめに

本工事は、平成17年の台風14号により被災を受けた、仁淀川右岸用石堤防の漏水対策工事（施工延長205m）と仁淀川右岸天崎箇所根固災害復旧工事（施工延長375m）です。

■用石堤防の漏水対策工事の概要

基盤漏水を防止するため、既設護岸の全面に遮水鋼矢板（ⅡW型・L=7m）を打設し、堤体漏水を防止するため計画高水位まで遮水シートで覆い、その上に低水部は石張工、高水部は覆土ブロック工及び覆土・張芝工を施工する工事です。



当工事の実働工期は5ヶ月であったが、工事箇所が干潮区間のため干満差が最大2m程度あり、工事用道路兼用の仮締切（260m）と堤防天端からの進入路（150m）の設置・撤去に1.5ヶ月程度を要し、且つ覆土工が仮締切撤去の流用土であるため、その後の覆土・張芝工の施工を考慮すると、遮水矢板打設から覆土ブロック工完了までの施工期間は実質3ヶ月程度と極めて厳しい工程でした。

従って、社内での施工検討会により最も効率よく安全に施工できる方法等について詳細に検証し、発注者との総括打ち合わせ時において設計変更の協議も含め施工計画等について綿密な打ち合わせを行い工事に着手しました。

施工に当たっては、施工区間を4工区に分割して可能な限り並行作業を行い、先行作業によるロスの削減と同時進行における複数作業の品質確保と安全確保を図るため、施工管理のための技術員を5名体制に増員し、直営作業班を含む下請業者との綿密な打ち合わせを日々行い工事の円滑な進捗に努めました。

施工中、最も苦勞したのは、既設護岸背面からの大量の湧水で、10インチの水替ポンプを18台投入する異例の水替え作業の中での工事となりました。又、背面からの水圧により既設ブロックの基礎胴木に変異が確認されたため、発注者との協議により一部工法の変更を行い、無事水中部の施工を終えることができました。

さらに、当該工事では仮締切高さを河川水位の上昇を考慮して余裕をもって設置したことにより、工事期間を通じて越流による手戻り作業を回避することができ、また、石張り工法の創意工夫により大幅に工期の短縮を図ることができました。



■天崎箇所の根固災害復旧工事の概要

河岸洗掘により被災した根固工を復旧するため、根固ブロック（2 t 型）約1,400個を製作し、被災した既設ブロックの上に設置（乱積）し復旧した後、間詰め石を施工する工事です。



当工事は、根固ブロックの製作・据え付け個数が多く、工事用道路の設置から間詰め石の施工までを考慮すると厳しい工程に加え、約5 km下流の用石箇所との並行作業となるため施工管理に万全を期す必要がありました。

1. 1級土木技術検定試験「実地」受験準備講習会開催

平成19年度1級土木技術検定「実地」試験、受験予定者へ合格を目指す短期集中の2日間コース講習を、19年9月6日～7日に受講者65名で会場を高知県教育会館「高知城ホール」で開催しました。

昨年の実地試験より、試験機関から今まで以上に幅広い分野から出題すると発表がありました。これを受け当講習では、施工経験記述指導と実地試験対策資料の提供を行い、万全の対策で講師より解説・指導がなされ、受講者は「演習問題」を交え、真剣に取り組んでいました。

（1級土木「実地」試験日 10月7日(日)、合格発表は20年1月18日(金)です。）

2. 2級土木技術検定試験「学科・実地」受験準備講習会開催

昨年度より、2級土木技術検定試験は10月実施となり、試験会場も「高知市」開催が追加されています。

当技士会では試験直前の講習として、19年10月2日～4日に短期間で集中的学習を、会場「高知城ホール」において実施し、検定試験に合格してもらうために、試験科目における概略の知識と一応の応用能力を習得すべく、重点項目を用いて出題傾向を理解させ、基礎知識を整理して身に付けるよう、解答のポイントや勉強すべき事項に的を絞り、受講者の側に立ってきっちり講義されました。

（2級土木「学科・実地」試験日 10月28日(日)、合格発表は20年2月15日(金)です。）



1級土木「実地」受験準備講習会



2級土木「学科・実地」受験準備講習会

3. 土木施工管理／四国4県統一テーマCPDS指定技術講習会を開く

土木工事に携わる技術者は、幅広い知識の習得と、時の動向に呼応した施工管理手法や技術力が求められています。

四国土木施工管理技士会連合会主催のもと、各県土木技士会が国土交通省四国地方整備局並びに各県の土木部等の後援・ご支援を得て、土木技術講習会を開催いたしました。

当技士会では、平成19年10月31日に会場を「ウエルサンピア高知」（高知市）で、267名

の土木技術者参加のもと、各講師より時期に適したテーマの解説を受け、最後には、講習内容の理解度確認テストに挑戦し、有意義な講習会を終了しました。

この講習会は、国土交通省四国地方整備局や高知県等で建設工事の入札参加時での技術者評価の加点対象となる、CPDSユニット数が学習履歴として登録されました。

以下に、学習テーマと講師を紹介します。

テ	マ	講	師
新潟県中越沖地震の教訓		愛媛大学 防災情報研究センター 教授 鳥居 謙一 氏	
四国地方整備局の新たな入札契約と ユニットプライス 積算		国土交通省四国地方整備局 技術管理課 課長補佐 上 林 正 幸 氏	
ワンデーレスポンスとCCPM (新しい工程管理手法)の取組み方		高知県土木部 建設検査課長 工学博士 夕部 雅 丈 氏	
講習会試験…研修・講習会の効果を測定のため、テストを実施			

高知で技術講習会開く

四国土木施工管理技士会連合会(宮田益吉会長)



は10月31日、四国4県統一テーマによる恒例の2007年度土木施工管理技術講習会を高知市のウエルサンピア高知で開催し、約270人が受講した(写真)。

講習では、愛媛大学防災情報研究センターの鳥居謙一教授が「新潟県中越沖地震の教訓」のテーマで講演。発生が予測される南海地震への備えに役立つ建設技術者の基本について解説したほか、国土省の上林正幸技術管理課長補佐による「四国地方整備局の新たな入札契約とユニットプライス積算」、高知県土木部の夕部雅丈建設検査課長による「ワンデーレスポンスとCCPMの取組み方」と題した講演が行われ、受講者らは新しい工程管理手法の掌握や積算方法による効率化への対応などについて真剣な表情で聞き入っていた。



四国4県統一テーマCPDS指定技術講習会

建通新聞19.11.9(金)記事より転掲載

4. 中国・四国土木施工管理技士会連合会「ブロック協議会」「技術交流会」開催される

総合評価実施など行政庁と意見交換



◀ 技術交流意見交換会

中国・四国土木施工管理技士会連合会は11月20日、2007年度ブロック協議会と技術交流会を高知市の三翠園で開き、土木施工管理技士の地位向上、安定化に向けた取り組みをはじめ総合評価落札方式の各県の実施状況など8項目に上る議題について、国交省など行政庁と意見交換を行った。

当日は、技術交流会に先立つブロック協議会で、中・四国9県の土木技士会会長、副会長、事務局長が出席、土木施工管理技士の重視活用等、各県から出された議題を審議し、行政庁への技術交流意見として提出する議題を再確認した。

技術交流会には、来賓として国土交通省大臣官房技術調査課の森田宏課長補佐、四国地方整備局の柘屋誠局長、中国地方整備局の山中義之企画部長ほか幹部職員をはじめ、高知県の宮崎土木部長や四国各県の土木部担当者、全国土木施工管理技士会連合会の紀陸富信会長代行、高知県建設業協会より青木誠光会長代行ら20人が出席。

主催者を代表し、四国土木施工管理技士会連合会の宮田益吉会長が「総合評価方式は、土木施工管理技士にとって今後さらに重要な位置付けになる」と挨拶。柘屋局長も「各自治体で一般競争は先行するものの総合評価方式の導入の遅れを感じている。国交省としても社会資本整備の着実な推進のため、より良い入札契約制度の確立、また協力体制を構築していきたい」と述べた。

また、協議会と技術交流会を挟み記念講演会が開かれ、森田宏課長補佐が講師となり、「土木工事の実施に当たって」の演題で、品質確保などについて解説した。

技術交流意見として提出された議題は次の通り。

1. 総合評価落札方式の実施状況について
2. 土木施工管理技士の地位の向上と安定化について
3. 土木施工管理技士の評価・活用について
4. 総合評価落札方式の市町村への導入について
5. 総合評価方式に伴う保留通知理由書の内容改善について
6. 落札業者の早期決定策について
7. 土木施工管理技士のデータベースの整備について
8. 施工箇所が分散している工事の積算について

会員の皆様

新年あけまして

おめでとうございます。



会長	宮田益吉	制度委員長	宮田喜弘
副会長	田邊聖	技術委員長	石建国元
〳	安岡健	研修委員長	谷岡孝雄
〳	土方猛	広報委員長	三谷斉

技士会が行う研修・講習会に参加しましょう。

技士会伝言板

会員の皆さんへのご案内、ご依頼ごとです。よろしく申し上げます。

土木施工管理技士会の 監理技術者講習のご案内

★ 技士会連合会の監理技術者講習のメリット ★

- ①申込書に継続学習制度（CPDS）登録番号を記入するだけで、受講後に技士会の継続学習制度の学習履歴として登録加点されます。
- ②申込時にCPDS新規加入の方は、受講料にCPDS費用を上乗せして、CPDS登録番号記載箇所に「新規」と記入して下さい。（新規加入と履歴登録が同時にできます!!）
- ③インターネット（<http://www.ejcm.or.jp>）申込みなら写真・書類の郵送は必要ありません。

1. 受講対象者

公共工事の監理技術者となる方（現場配置前に講習を受講しておくこと。）

建設業全28業種の監理技術者が対象となります。

ただし、資格者証の「有する資格欄」に「認定」とされている方（大臣認定者）はこの講習の対象外。

2. 受講料

10,800円（テキスト代・講習修了証交付手数料、消費税含む）

インターネット申込なら受講料10,500円

3. 実施日・会場

平成20年2月2日（土） 平成20年4月12日（土） 平成20年7月26日（土）

平成20年11月22日（土） 平成21年2月7日（土）

講習会会場：高知県建設会館「4階ホール」 講習時間：午前8時50分～午後4時30分

4. 講習内容

建設工事に関する法律制度（最近の社会・経済情勢と技術者制度）

建設工事の施工管理、その他の技術上の管理

建設工事に関する最近の技術動向等

修了試験（20分） ※修了試験後、講習修了証交付

申込方法

- (1) 受講申込書
 - (2) カラー顔写真を貼った写真票
 - (3) 受講料の郵便振替払込請求書兼受領証のコピー
- ※ 申込書類・(1)～(3)を持参、または「配達記録郵便」で提出

受講申込書提出先

(株)高知県土木施工管理技士会
〒780-0870 高知市本町4丁目2-15 (TEL 088-825-1844)

平成20年度 1、2級土木施工管理技士試験と講習会のご案内

～ 土木施工管理技士をめざして～

(財)全国建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「検定試験」、また、(社)高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社にてご案内文書を発送いたします。

－ 実 施 予 定 －

◎ 検定試験



1級(学科)	申込受付 試験日	平成20年4月上旬～4月中旬(予定) 7月第1日曜(予定)
1級(実地)	申込受付 試験日	平成19年度学科試験合格者・学科試験免除者 平成20年4月上旬～4月中旬(予定) 平成20年度学科試験合格者 平成20年8月中旬～9月上旬(予定) 10月第1日曜(予定)
2級 (学科・実地同日)	申込受付 試験日	平成20年4月上旬～4月中旬(予定) 10月第4日曜(予定)

◎ 受験準備講習会 (「検定試験」受験に備える講習会)

1級(学科)	日程	平成20年6月3日～5日 6月10日～12日	} (6日間)
会場	高知市		
受講料	会員：45,000円・一般：48,000円		
再受講者割引	(H18～19年度当講習会参加者) 会員：35,000円・一般：38,000円		
「実力テスト」	日程	平成20年6月14日 (1日間)	
会場	高知市		
受験料	受験講習会参加者：6,000円 テストのみ参加者：8,000円		
1級(実地)	日程	平成20年9月2日～3日 (2日間)	
会場	高知市		
受講料	会員：20,000円・一般：23,000円		
再受講者割引	(H19年度当講習会参加者) 会員：18,000円・一般：21,000円		
2級	日程	平成20年9月30日～10月2日 (3日間)	
会場	高知市		
受講料	会員：30,000円・一般：33,000円		
再受講者割引	(H18～19年度当講習会参加者) 会員：25,000円・一般：28,000円		
「実力テスト」	日程	平成20年10月4日 (1日間)	
会場	高知市		
受験料	受験講習会参加者：6,000円 テストのみ参加者：8,000円		

